

マメ科 ソラマメ属

ナンテンハギ (南天萩)

Vicia unijuga A.Braun

自生環境

野原、林縁、土手 など

原産地

日本在来

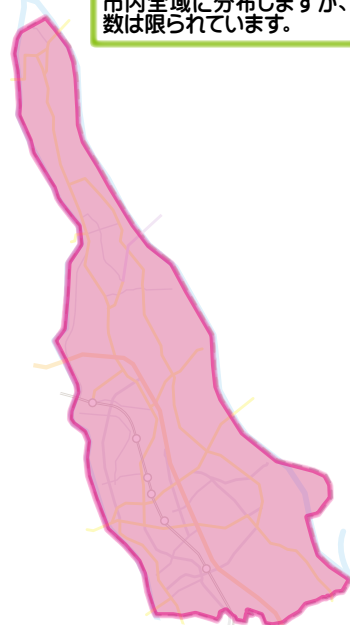
生育を脅かす要因



外来植物に覆われたり、除草剤をかけられたりすると、数が減ってしまいます。また宅地開発などで土地の様子が大きく変わると、そのまま絶えてしまう傾向があります。

市内の分布状況

市内全域に分布しますが、数は限られています。



特徴

- ☆ 野原や林の縁など、里山の環境にたくさん生えている多年草です。春の新芽が身近な山菜として親しまれているほど、ありふれた草ではありますが、開発の進んだ平地ではめっきり少なくなっていました。
- ☆ 草丈は 30 ~ 60cm ほどで最初は直立しますが、長くのびると次第に他の植物にもたれかかるようになります。この仲間は、葉先が巻きひげになるものが多いのですが、ナンテンハギは巻きひげはほとんど出ません。小葉の枚数は 2 枚ずつです。
- ☆ 初夏から秋にかけ、葉のわきから柄を出し、柄の先に赤紫色の花が数個ずつ穂になって咲きます。結実率はあまりよくありませんが、花後は細長い豆のさやができます。成熟すると音を立てて弾け、中のタネを飛ばします。

信州ではアズキハギとも

標準和名(植物名の共通語)はナンテンハギですが、各地で身近な山菜として親しまれているため、いくつかの地域名が存在します。標準和名のナンテンは、小葉のかたちをナンテンの葉に見立てたものですが、これをアズキの葉に見立てアズキハギやアズキナとも呼びます。特に信州では、アズキハギのほうが言葉の通りが良いと言います。その他、葉のつきかたからフタバハギとも呼ばれます。



何個もの花が丸く集まって咲く



マメ科の花は蝶のかたちと例えられる



がくは筒状になっている



巻きひげはほとんど出ない

小葉
しょうよう

小葉は 2 枚ずつの組になってつく

たより
托葉

葉のつけ根に 2 枚の托葉がある



莢は熟すと弾け、中のタネを勢いよく飛ばす



春の芽吹き。あずき菜と呼ばれて、山菜として利用される

わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

